

新 日 鉄

NIPPON
STEEL
MONTHLY

8・9

2011
AUGUST &
SEPTEMBER
VOL.211

特別座談会

世界から信頼される

グローバルプレーヤーを目指して

宗岡社長と海外拠点駐在の新日鉄マンが語り合う

●トークスクエア

第21回 新日鉄音楽賞受賞者インタビュー

自分の音をまっすぐにお客さんに届けたい

〈フレッシュアーティスト賞〉

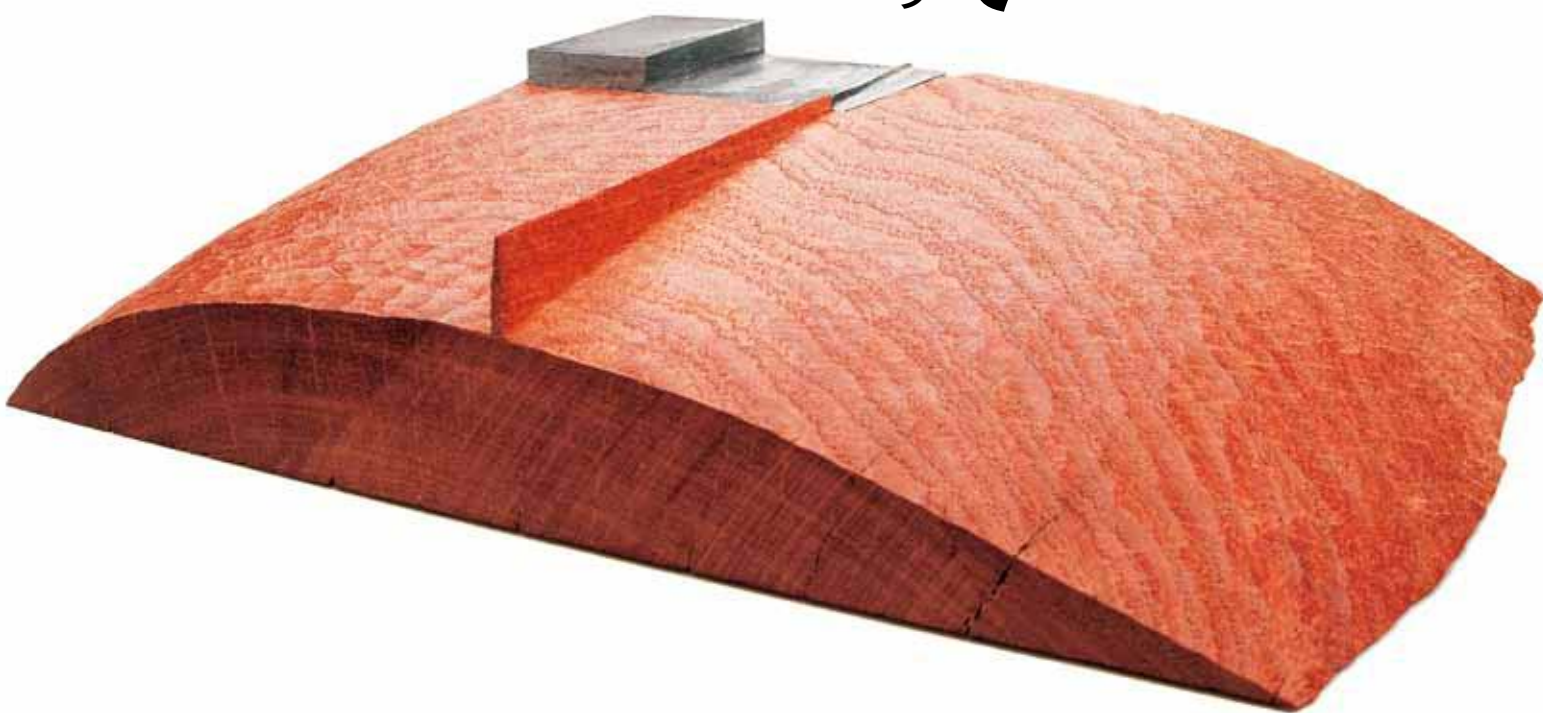
ヴァイオリニスト 大阪フィルハーモニー交響楽団首席コンサートマスター

長原 幸太氏

教え方が厳しいのは当たり前。音楽の道は厳しいのだから

〈特別賞〉 ヴァイオリニスト 社団法人才能教育研究会芸術監督

豊田 耕児氏



大分製鉄所 設備部機械技術グループ
猪ノ口 愛 (2009年入社、機械工学専攻)

“トライボロジー”を 製鉄現場に浸透・定着させ、 設備トラブルの撲滅を目指す



近年、鉄鋼業をはじめとする産業界では、設備機械の長寿命化と省エネルギーを目的に、機械の血液とも言える潤滑材(潤滑油、グリースなど)を分析し、摩耗・損傷状態を管理・診断する「トライボロジー」(*)が注目されている。学生時代、機械工学を学ぶ中で当時まだ聞きなれないこの分野の技術を学んだ。

「大分で生まれ、製鉄所の高炉を見ながら育ちました。と言っても構内に入ったことはなく、就職活動のときに、さまざまな設備機械がダイナミックに稼働している光景に魅せられました。学生時代に学んだトライボロジーが製鉄設備の保全に活かされていることにも驚きました」

現在はグループ企業の新日鉄化学(株)とも連携し、現場で採取した設備機械の潤滑材の分析結果を活用して、製鉄所設備の予防保全技術開発に取り組む毎日。

「製鉄所のどの工場でも多くの潤滑材が使われています。まだ入社3年目で具体的な成功体験はありませんが、まず設備保全の高度化

の観点からトライボロジーの重要性を浸透・定着させていくことが私の使命だと考えています。諸先輩からの教えや現場でのケーススタディを通して知識を蓄積し、現場が求める技術を開発して、最終的には潤滑が原因で起こる設備トラブルを撲滅したいと思っています。また、鉄づくりにかわる人間として、担当業務だけではなく大分製鉄所の活性化につながる諸活動にも積極的に取り組んでいきたいですね」



設備機械の摩耗状況をラボ実験する様子

* トライボロジー：tribology。ギリシャ語の tribos(摩耗を意味する言葉)を用いた造語。

空と海と島 自然と産業が調和



(出所：山口県ウェブサイト「やまぐちの環境」)

大分製鉄所光鋼管工場は瀬戸内海に面した風光明媚な環境にある。その沖合に浮かぶ大水無瀬島と小水無瀬島は光鋼管工場が所有する無人島で、白砂青松の海岸線が美しい虹ヶ浜・室積海岸などとともに、瀬戸内海国立公園の一画を成す。空と海と島の自然景観と地域経済を支える産業が見事に調和している。

目指して 語り合う――

新日鉄の グローバル 生産・供給体制

- 海外アライアンス会社
- 海外事業会社
- 海外事務所（座談会参加者が在籍する拠点のみ掲載しています）

- ベトナム
 - POSCO Vietnam (冷延)
 - PEB STEEL (建材加工)
 - NPV (鋼管杭、鋼管矢板)
- マレーシア
 - Nippon EGalv Steel (亜鉛めっき鋼板)
 - YKGI (亜鉛めっき鋼板、カラー鋼板)
- インドネシア
 - INP (鋼管)
 - LATINUSA (ブリキ)

ブラジル

● ウジミナス

ブラジル高炉一貫メーカー。1951年日伯合弁会社として設立。設立以来、当社が中心となって技術・操業支援を行う。2006年当社の持分法適用関連会社に。粗鋼能力950万トン、従業員29,600名。

- UNIGAL (亜鉛めっき鋼板)

- 米国
 - I/N Tek (冷延)
 - I/N Kote (亜鉛めっき鋼板)
 - Suzuki Garphyttan (鋼線)
- メキシコ
 - TENIGAL (亜鉛めっき鋼板)



○ 出席者

新日鉄社長

宗岡正二

新日鉄八幡製鉄所ブリキ工場ブリキ課

増地和幸

(2007年「タイサイアム・ティンプレート(STP)」に出向、本年帰任)

ニッポンスチール・パイプ・インディア(NPI)

高杉直樹

新日鉄鉄鋼情報コンサルティング上海支店

大瀧敦夫

ウジミナス

蝦名博志

タイ新日鉄

西山史一



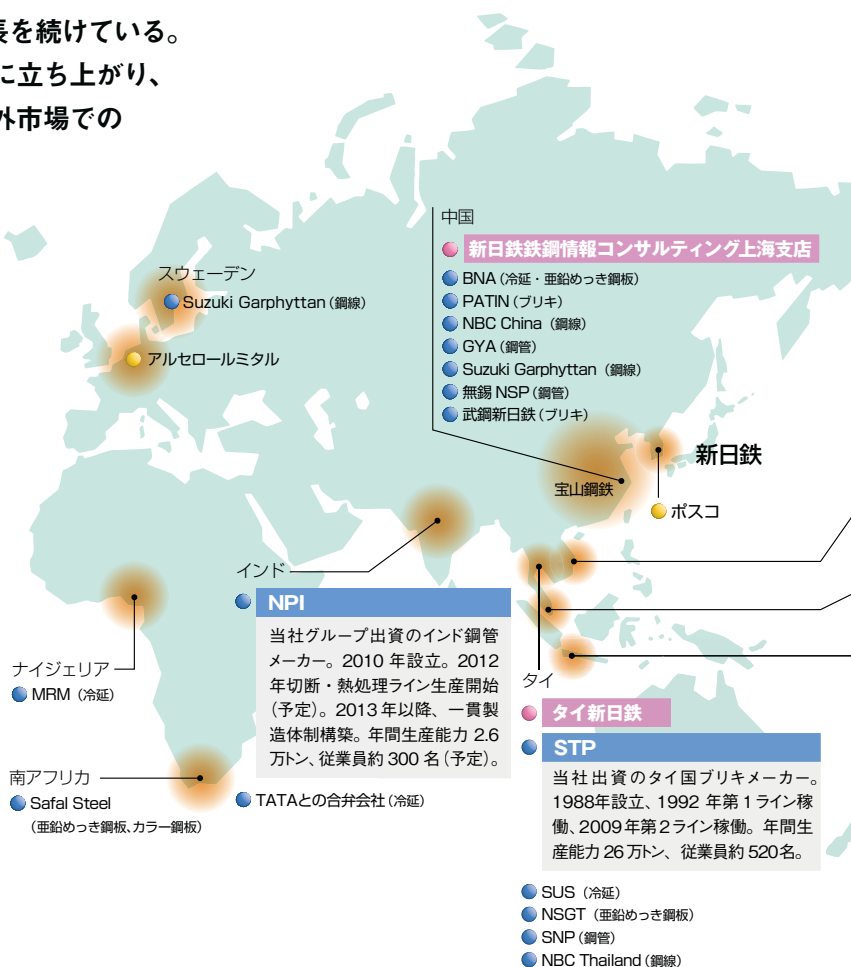
世界から信頼される グローバルプレーヤーを

—— 宗岡社長と海外拠点駐在の新日鉄マンが

経済の成熟や人口減少を背景に国内鉄鋼需要に回復の道筋が見えない中、世界の鉄鋼需要は新興国経済に牽引され、毎年8,000万トン規模で成長を続けている。

一方供給面では、東アジアを中心に新鋭ミルが急速に立ち上がり、円高や製鉄原料価格の高止まりの影響もあって、海外市場での大競争は厳しさを増している。

こうした中、新日鉄グループでは新たな成長に向け、日本・アジア・環大西洋圏の世界3極のグローバル生産・供給体制構築に取り組んでいる。今号では、宗岡社長と海外拠点で事業基盤強化に取り組む社員が、グローバルプレーヤーとしての現在と今後の課題について語り合った。



需要拡大の中で、 競争が激化する 各国の鋼材市場

宗岡 今日では海外拠点で活躍する皆さんから、自由に意見を伺いたいと思います。最初に皆さんの担当業務や各国の市場環境などについて紹介をお願いします。

西山 約1年前からタイ新日鉄で、非自動車分野向け薄板を中心とする営業

支援と管理業務(財務・総務・人事)を担当しています。現在、新興国や先進国の輸出拠点である東南アジアは経済成長率7%と好調です。昨年165万台だったタイの自動車生産台数は、今年が180万台、2015年には250万台になる見込みで、自動車メーカー各社は増産体制をとり、電機も日本や中国からの製造拠点の移管が加速化しています。また、生活水準の向上に伴い建材分野の需要も拡大中です。そうした経済環境下で鋼材需要は旺盛ですが、競合他社の設備投資も活発で競争が激化しています。

増地 2007年からタイのブリキ製造・販売会社STPの第2ライン立ち上げにテクニカル・アドバイザーとして参画し、今年4月に八幡製鉄所ブリキ工場に戻りました。先程の西山さんの話に加えて、現在タイではKitchen of the world政策(※)の下、食料缶詰の輸出が進み、ツナ缶の輸出量は世界で約50%のシェアを占めています。年間



グローバルプレーヤーとして、新工場立ち上げや製造実力向上に挑む

宗岡 現在当社では、成長する鉄鋼需要を捕捉するため、海外での新会社・新工場の設立を進めています。まず、国内で経験する機会の少なくなった新

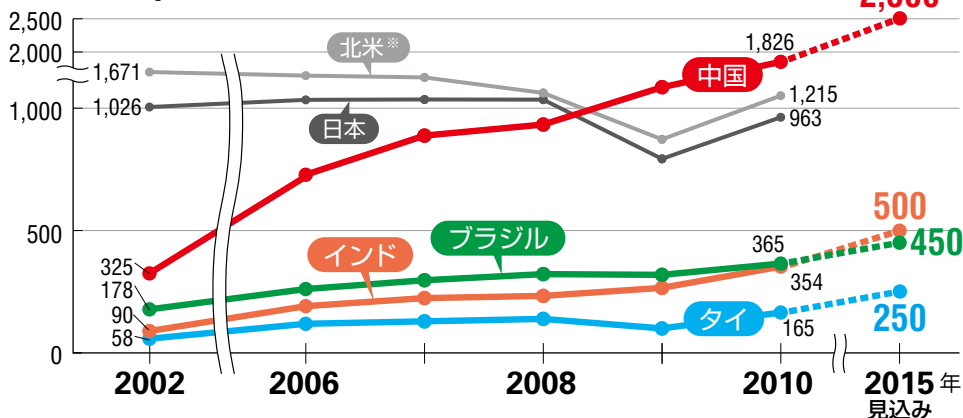
ライン立ち上げについて聞かせてください。
高杉 昨年9月に設立したNPIでは、今年4月から新工場の基礎工事が始ま

りました。赴任してインド市場の変化の速さを痛感し、コスト競争力強化と、母材から製品までの最適設計を行う当社の強みを活かすため、一貫製造ライ

ンの稼働を、当初計画から1年前倒しで実行することを検討しています。また、工事遅延が当たり前(通称「インド時間」)のこの国で、立ち上げ時期を厳

主要国の自動車生産台数推移

単位：万台 



参考資料：日本自動車工業会、中国汽车工业协会、ブラジル自動車製造業者協会 (ANFAVEA)、インド自動車工業会 (SIAM)、タイ工業連盟 (FTI) 自動車部会、マークラインズ調べ、2015 年見込みは当社推定ほか

※米国、カナダ、メキシコの合計

約60万トンのタイブリキ市場において、年率5%の成長を続けるツナ缶向け需要の捕捉を目的に、第2ラインの立ち上げを行いました。
高杉 今年1月にインド初の製造拠点となるニッポンスチール・パイプ・インディア(NPI)に赴任し、自動車用鋼管工場の立ち上げを含めた技術系業務全般を担当しています。インドでも自動車生産台数が急激に伸び、昨年の354万台が5年後には500万台(日本の半分)になると予測されています。東南アジアと異なる点は、現地に地場鉄鋼メーカー・部品メーカーによる既存のサプライチェーンがあり新規参入が容易ではないことです。

が増え、市場シェア拡大を狙う日系自動車メーカーの生産台数が拡大し、品質・デリバリー面が重視されるようになると、新たなサプライチェーン構築が必要で、そこに当社グループの活路があると考えています。
大瀧 2004年から上海に駐在し、宝钢新日鉄自動車鋼板(BNA)の立ち上げ支援や事務所の管理業務などを担当し、加えて現在は中国に約30社あるグループ企業の設立・运营管理などの支援業務も担当しています。中国では2001年のWTO加盟後から経済成長が加速化し、私が中国ビジネスを担当し始めた1999年に1・2億トンだった粗鋼生産量は今年7億トンを超える規模となり、自動車生産台数も2002年の325万台が昨年1826万台になりました。

東南アジアとの違いは、市場は大きいものの中国国内でこれを生産する地場プレーヤーが存在し、日本からの輸出による対応に限界があることです。このため、外資規制など難しい問題はありますが、当社がインサイダーとしての位置付けを強化していくことが求められています。
蝦名 2008年から当社とウジミナスの合弁会社であるブラジルのウニガルに出向、昨年からウジミナスに移り販売戦略の立案・実行を担当しています。ブラジルは今年も4%と安定した成長を維持しています。サッカークラウドカップ、オリンピック開催もあり、さらなる成長が見込まれ、自動車生産台数も昨年の365万台から、2015年には450万台、2010年代後半には500万台を超えるものと予測されています。

一方、レアル高を背景にブラジル国内産業の競争力低下リスクが顕在化しており、鋼材に関しても昨年約1300万トンの板系鋼材需要のうち300万トンが輸入されるなど、国内価格が国際価格に取れん、本格的な国際競争時代を迎えています。

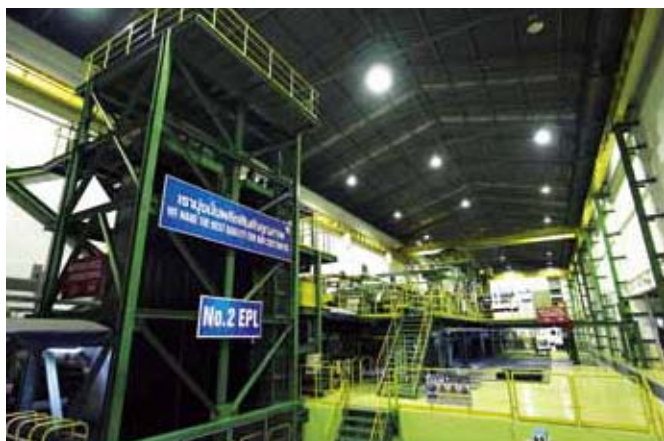
※ Kitchen of the world 政策
世界の台所として、缶詰を含めた食料品の輸出をタイから拡大しようというタイの産業政策。



インド NPI の工場建設現場で工事の進捗を確認



ブラジル ウジミナス社内打ち合わせ風景



タイ STP 第2 めっきライン 手入れの行き届いたきれいな現場



タイ STPの6SやTPM活動で見やすくなった設備

守するため、100 km離れた工事現場に毎週足を運んで進捗を確認し、少しでも工事の遅れがあれば、建設会社や設備メーカー、コンサルタント会社、現地スタッフと連携しながら、人員増強などの対応を行っています。現時点ではそうした取り組みが功を奏して、計画通りに工事が進んでいます。

増地 STP第2ライン立ち上げでは、事業化調査から立ち上げまでを一貫して経験しました。その過程でキーマンとなる現地社員の最大活用、現地の次世代人材育成、計画工期の達成という3つの課題を解決するために、88年のSTP立ち上げ時より長年在籍している現地社員をキーマンに据え、次世代

の人材育成・技能伝承を行いながら立ち上げを推進し、名古屋製鉄所に約30名の現地社員を送り研修も行いました。また、雨季のあるタイで現地メーカーを使つての工期管理は大変でしたが、現地社員と対話しながらトラブルの未然防止という日本流のやり方も取り入れて対応し、環境問題という別の要因での稼働遅延はあったものの、工事自体は半月前倒しで完工することができました。

宗岡 非常に頼もしく思います。一方、品質・納期・コスト競争力強化など製造実力向上に対してはどのような取り組みを行っていますか。

西山 鉄の機能・品質による差別化が

見えにくい家電用表面処理鋼板や建材向け製品では、価格競争に巻き込まれないために各部品・部材の機能まで一歩踏み込んだ提案が必要です。現在は富津の総合技術センターの構造解析データをもとに、新たな成形方法で鋼板を薄手化してお客様のコスト削減を図り、汎用品にはない付加価値の浸透に努めています。グループ総合力を活かす観点からは、例えばサイアム・ユナイテッド・スチール(SUS)の冷延材をSTPで表面処理し、STPによる製缶メーカー向けの短納期デリバリーを実現しました。また数年前から3カ月に1回、シンガポール・インド・中国・日本のスタッフが集まる定例会議を開催して、品種

分野ごとの各拠点の情報共有・活用に取り組んでいます。

蝦名 大競争時代に入ったブラジルでは、製鉄事業の生き残りのために品質・コストを含めた製造実力向上が必須です。具体的には現在、イパチंगा・クバトン両製鉄所の生産構造最適化や、CLC※・ウニガル第2CGL立ち上げ・熱延ライン新設などによる高級鋼需要の捕捉に取り組んでいます。また、新日鉄によるサポートも強化され、

副社長と技術者5名でウジミナス社全体の課題について支援する体制に拡充しました。

宗岡 円高で苦しんだ日本と同様のことがブラジルで起きており、経済成長



ニッポンスチール・パイプ・インディア
高杉 直樹



新日鉄鉄鋼情報コンサルティング上海支店
大瀧 敦夫



新日鉄社長
宗岡 正二



新日鉄と住友金属工業(株)が経営統合に向けた検討を開始(2011年2月3日発表)

世界共通の「信頼」をベースに、グローバル化をさらに推進

の一方でレアル高が進み輸入攻勢が強まる厳しい状況にあります。日本で鍛え培った経験をもとに克服してほしいと思います。

増地 STPでは稼働後約15年を経て、自主管理・改善のPDCAを回す仕組みづくりが課題となり、2007年から人材育成も視野に入れたTPM活動※を開始。また6SやTPM活動を通じて設備をきれいに見やすくし、オペレー

ターに設備の機能までを含めた理解を根付かせる活動に取り組みました。見学したお客様や地域の方から鉄鋼メーカーとは思えないほどきれいだと評価され、企業価値の向上にもつながったと感じています。また、オペレーターが設備の原理・原則を理解した上で設備点検できるように、動力伝達機構や油圧システムなどの模型を使った教育なども実施しました。

宗岡 STPの工場は本当にきれいで感心しました。私が日本国内の各製鉄所でその話をするので新日鉄からの見学者も増えたようです。

※CIC: Continuous on Line Control Process
鋼材の強度や粘りを精密にコントロールする制御冷却プロセス。

※TPM活動: Total Production Maintenance
生産システムのライフサイクル全体を対象に、生産システムの効率化を進める取り組み。

宗岡 現在、海外生産を加速させている自動車や家電などの日系のお客様は、各社の現地生産拠点に対しても、日本と同じ品質の鋼材を、同じ納期で提供することを求めています。そうしたニーズに対して、当社では今後、経営統合により各国の鋼材供給拠点を迅速・効率的に配置・活用することで、競合他社より圧倒的に有利なポジションを確保できると考えています。最後に、皆さんが現地で感じる当社の強みと、グローバルに活躍する人材に求められるものについて聞かせてください。

高杉 まずは、製鋼から最終製品まで一貫で最適設計・管理で

きる点です。さらに鋼管事業は中国・タイ・インドネシアに続いてインドが4拠点目であり、立ち上げノウハウが蓄積されていることも強みです。グローバル人材に求められるものは、広範囲の業務を軽重つけてこなしていく能力と、つまづいても下を向かず常に前進する姿勢を現地社員に示すことだと思います。

増地 昔から海外輸出が多かったブリキは、国内外のお客様と協業しながら共に成長してきました。その過程で製缶技術などのソリューションを地道に蓄積してきたことが大きな強みです。グローバル人材に求められることは、相手のスタンスをしつかり受け止め確実に対応できる能力と、技術力を基軸とした対話です。



新日鉄八幡製鉄所 プリキ工場 プリキ課
増地 和幸



タイ新日鉄
西山 史一



ウジミナス
蝦名 博志

西山 強みを一言で言うと、先輩たちが築いてきた高い技術力を前提とする営業力・企画力などのブランド力だと感じています。またグループの総合力を活かし、品質・納期・コストを一貫管理できることが大きな強みです。グローバル人材に求められるのは、現地で起こっている事象や情報を臨場感を持って日本に伝えて理解してもらう熱意と能力です。

蝦名 これまで新日鉄は、自動車分野を中心に他社に先駆けてグローバル供給体制を構築してきました。この優位性をさらに発展できるはずです。新日鉄マンは高いモチベーションで粘り強く課題に取り組むDNAを持っています。海外だから特別ではなく、日本にいても常に改善・改革・挑戦する姿勢で自ら考え行動することが重要だと思います。

大瀧 先輩たちが尽力された長年の協力関係の中で常に正々堂々と歩んできた当社は、中国鉄鋼業界からも敬意と信頼を持って受け止められています。それが強みであり後進がしっかり継承していかなければならない資産です。グローバル人材については、チャンスを活かしてまず海外を経験して、日本の常識がそのまま通用するものではないことを実体験することが大切です。

宗岡 各国のトップメーカーが事業の検討などを行うとき、まず最初に相談する鉄鋼メーカーとして当社を選んでいた

だいています。競合他社よりも早くそうした情報と接して事業化判断できることも当社の強みの一つだと感じています。アルセロールミタルやポスコ、宝山鋼鉄など各国のトップメーカーとのアライアンスもそうした中で実現してきました。これは卓越した技術力だけでなく、当社に対する信頼によるものです。当社は半世紀前のブラジルのウジミナスを皮切りに、ポスコ、宝山鋼鉄などへの技術協力という形でグローバル化に取り組んできましたが、その歴史の中で、諸先輩が実践してきた当社の企業行動が大きな信頼を勝ち取ってきたことを実感しています。国民性は違っても「信頼」という思いは世界共通のもので、私たちはその財

産をしつかり継承していかなければなりません。また来年10月の住友金属工業(株)との経営統合が実現すると、粗鋼5000万トンという規模をベースに経営の安定が図られ、人・技術・資金などの経営資源を効率的に運用することで、海外事業展開をより迅速に広範囲に確実に実行できるようになります。さらに当社の強みである薄板を中心とした技術と住金の高い鋼管技術が融合すれば、世界の舞台で競合他社の先を行くことができます。今後、これら経営資源の最大活用を図り、皆様の信頼にお応えしていきたいと思っています。皆さん本日はありがとうございます。



写真左 ブラジル・ウジミナスの操業を祝う記念式典 (1962年)

写真右 ウジミナスの製鉄所建設を示す看板



中国・宝山鋼鉄建設プロジェクト第一期起工式における稲山会長(当時)の挨拶 (1978年)

第21回新日鉄音楽賞 贈呈式・受賞記念コンサート



7月6日、東京・千代田区の紀尾井ホールで「第21回新日鉄音楽賞」の贈呈式と受賞記念コンサートが行われた。フレッシュアーティスト賞にヴァイオリニストの長原幸太氏、特別賞にヴァイオリニストで(社)才能教育研究会芸術監督の豊田耕児氏が輝いた。新日鉄音楽賞は1990年、新日鉄創立20周年と新日鉄コンサート放送35周年を記念して設けられたもので、新日鉄グループは日本の音楽文化の発展と、将来を期待される音楽家の一層の活躍を支援している。



受賞の喜びを語る豊田氏(中央)



松下功「マントラ」ほか2曲を演奏

コンサートマスターとしてオーケストラに生命を吹き込む

フレッシュアーティスト賞

長原幸太氏

フレッシュアーティスト賞は将来を期待される優れたアーティストを対象とした賞で、技術のみに偏らず音楽性や将来性を重視して広い範囲から選出し、賞状とトロフィー、副賞300万円を贈っている。

ヴァイオリニストの長原幸太氏は、

12歳で東京交響楽団と共演したのを皮切りに、日本各地の主要オーケストラや小澤征爾氏、故・岩城宏之氏、秋山和慶氏、ゲルハルト・ボッセ氏

などの名指揮者と共演。海外での活動も活発でイギリスの音楽祭に招かれ絶賛された。

ソリストや室内楽奏者として優れているだけでなく、大阪フィルハーモニー交響楽団の首席コンサートマスターやほかのオーケストラの客演コンサートマスターとして、オーケストラに好ましい生命を吹き込んでいる活動が今回高く評価された。

日欧で精力的に後進の指導に当たる

特別賞

豊田耕児氏

特別賞はクラシック音楽をベースにした活動を行っている個人を対象とした賞で、演奏家に限定せず幅広いジャンルの中から、音楽文化の発展に大きな貢献を果たした方に対して、賞状とトロフィー、副賞100万円を贈っている。

才能教育研究会芸術監督の豊田耕

児氏は、ドイツ正統派のヴァイオリニストとして、ベルリン放送交響楽団で第一コンサートマスターを17年

間務め、ベルリン国立芸術大学で21年間後進の指導に当たるなど、ヨーロッパで活躍。その後、日本で草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティヴァルの創立および音楽監督や群馬交響楽団の音楽監督としても多大な成果を収め、現在も精力的に後進の指導に当たっている。

(長原氏、豊田氏は今号の「トークスクエア」にご登場いただいています)



キム・カシュカシアン氏と桐朋学園オーケストラ

© 藤本史昭

第20回記念公演 ヴィオラスペース 2011 皇太子殿下ご臨席のもと 夢の競演を繰り広げる

今年で20回の節目を迎えたヴィオラの祭典「ヴィオラスペース2011」(主催：テレビマンユニオン)が5月27～29日の3日間、東京・千代田区の紀尾井ホールで開催された。最終日には皇太子殿下がご臨席され、国内外の豪華メンバーによるヴィオラの夢の競演に惜しめない拍手を送られた。



ヴィオラ八重奏

© 藤本史昭



ヴィオラの祭典を堪能された皇太子殿下

若手からベテランまで 総勢24人の奏者が結集

今回の第20回記念公演は、3夜連続のコンサートと3つのミニ・コンサートで構成され、若手からベテランまで総勢24人のヴィオラ奏者が結集した。メインコンサートでは、室内楽に欠かさないヴィオラの技を聴く「アンサンブルの妙」、古今のヴィオラ協奏曲を聴く「ザ・コンチエルト」、無伴奏からヴィオラ・オーケストラまで名手たちによるヴィオラ尽くしの祭典「ヴィオラ、ヴィオラ、ヴィオラ」まで名手たちによる「ヴィオラ、ヴィオラ、ヴィオラ万歳」と題し、ヴィオラのさまざまな魅力に光を当てた。

またミニ・コンサートでは、世界への躍進が目覚ましいアジアのヴィオラ奏者を紹介する「今井信子とアジア・フレ



今井信子氏(左から2番目)と次世代奏者

© 藤本史昭

オリジナリティ溢れる ヴィオラの祭典へと発展

「コンサート豪華出演者たちが講師となり公演に先立って行われた公開マスタークラスの優秀な受講生が演奏を披露する「ライジング・アーティスト・コンサート」、第1回東京国際ヴィオラコンクールの入賞者がさらに腕に磨きをかけて贈る「マローフ&ヘルテンシュタイン・ジョイント・リサイタル」など、今後の音楽界を展望する公演となった。

ヴィオラスペースは1992年、国家的に活躍するヴィオラ奏者の今井信子氏を中心に、オーケストラの中でも目立たない楽器というイメージの強いヴィオラの素晴らしさを広く伝え、次代を担う若い演奏家たちを育成する目的で始まった。それから20年、日本を代表するヴィオラ奏者や国内外のゲスト・アーティストが創造的な演奏を繰り広げ、世界にも類を見ないオリジナリティ溢れるヴィオラの祭典へと発展した。ヴィオラスペースの歩みを振り返り、今井氏は次のように語る。

「「こんなにも長く続くとは当初は正直なところ、想像もしていませんでした。世界中を見回してもヴィオラに特化したシリーズは見当たりません。これもヴィオラ仲間たちの、ヴィオラへの情熱の賜物であると思っています。今後とも私たちは常に前向きに、新しいことにどんどん挑戦していきたいと考えています」



写真上：初めての発表会。左小指を骨折しながらも参加した(1988年、小学2年生のころ)

写真下：2005年3月27日 大阪フィルハーモニーとヴィヴァルディ「四季」を演奏。ソリストを務める

ゲスト ● フレッシュアールティスト賞
ヴァイオリニスト

大阪フィルハーモニー交響楽団首席コンサートマスター

長原幸太氏

自分の音をまっすぐに お客さんに届けたい



プロフィール

1981年、広島県呉市生まれ。東京芸術大学在学中にジュリアード音楽院に留学。1994年ヴェニアフスキー国際ヴァイオリンコンクール17歳以下の部3位。98年日本音楽コンクール最年少優勝。12歳で東京交響楽団と共演したのを皮切りに、日本各地の主要オーケストラ、小澤征爾氏、故・岩城宏之氏など名指揮者と共演する。これまで村上直子、小栗まち絵、故・工藤千博、澤和樹、ロバート・マンの各氏に師事。2004年大阪フィルハーモニー交響楽団首席客演コンサートマスターに就任。2006年4月より首席コンサートマスターとなる。

——音楽の道に進まれたきっかけを教えてください。

長原 母がピアノの先生で、僕も3歳から習い始めたんですが、ピアノはどうしても合わなくて続きませんでした。でも母としては自分と一緒にできる趣味が欲しかったらしく、今度はヴァイオリンをすすめたんですね。僕は音楽と並行して野球やサッカーもやるスポーツ少年だったんですが、小5のときに小栗まち絵先生とお会いして、そこから真剣に音楽に取り組むようになりました。また、高校に入るころに澤和樹先生にお会いして、本気で音楽の道に進みたいなら私が面倒を見るから東京に来なさいと言っていたとき、東京芸大付属高校に進みました。

——スズキ・メソードの創始者である鈴木鎮一先生に師事されたのは、どんなきっかけからですか？

豊田 最初は父が鈴木先生に習いに行っていた、私を連れて行くようになったんです。私は3歳6カ月で定期発表会に出て、父の伴奏でヴァイオリンを弾きました。とても聴けたものじゃなかったと思いますが、当時はそんな子どもはほとんどいないので結構驚がれましたね。父は教育熱心で、私を鈴木先生に習わせるために、当時住んでいた浜松から先生のいる名古屋に引っ越して、その後もまた先生を追って東京に移りました。ただ、戦争が始まると先生は木曾に疎開されて、私も父を亡くし、音楽から完全に離れたまま。一時は工業高校に入って建築家を目指したこともあります。でも終戦後すぐ、NHKラジオの『尋ね人の時間』で先生が私を探してくださり、それが縁で再会がかない

ました。そこからは音楽に運命づけられたように感じています。

プレッシャーを受け止め 集中して弾く(長原)

——長原さんは若くしてコンサートマスターを任されていますが、どんな役割が求められる仕事なのでしょう？

長原 指揮者の意向を汲んで、楽団員の演奏を取りまとめるのがコンサートマスターの役割です。ただ、会社で例えれば指揮者が社長なわけですが、コンサートマスターとしては、社長命令をこなすだけでは面白くない。音楽的に正しくないと思えば意見することも必要です。そういった部分はプレッシャーですが、やりがいでもあると思っています。

——ご自身はどんな演奏スタイルを目指していますか？

長原 昔はお客さんの目を惹きつけなくちゃいけないと思って、派手に体を動かして演奏したこともありましたが、今はほとんど体を動かさずにヴァイオリンを弾くんです。オーケストラではコンサートマスターとして楽団員へ合図をする必要があるのですが、ソロや少人数で弾くときはほとんど動かない。理由は、お客さんにしっかりと音を届けたいから。音には指向性があるので、体を動かすと音の飛ぶ方向がブレてしまう。すると、まっすぐにお客さんに届かないんです。

豊田 素晴らしい！そうなんです。今のヴァイオリニストは上手だけど、体をくなくにやさせすぎるんですよ。だから音もくなくになっちゃう。いや、実に素晴らしい。

長原 実は今「すごく緊張する時期」なんです。舞台に立つのが正直怖いときがある。以前、



写真上：鈴木鎮一先生と日比谷公会堂で(1969年)
写真下：ベルリン放送交響楽団で第一コンサートマスターを務める(前列左)

豊田耕児氏

ゲスト ● 特別賞
ヴァイオリニスト 社団法人 才能教育研究会芸術監督

教え方が厳しいのは当たり前。 音楽の道は厳しいのだから



プロフィール

1933年、静岡県浜松市生まれ。幼少よりスズキ・メソッドの創始者として知られる鈴木鎮一氏に師事。1952年フランス政府給費留学生としてパリ国立高等音楽院に学ぶ。卒業後、ジョルジュ・エネスコ氏、アルテュール・グリュミオー氏に師事。ライン室内楽団第一コンサートマスターを3年、ベルリン放送交響楽団第一コンサートマスターを17年、ベルリン国立芸術大学ヴァイオリン科教授を21年間務める。また、帰国して草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティバルの創立および音楽監督を10年間、群馬交響楽団の音楽監督を6年間務めている。現在、国際スズキ協会会長、(社)才能教育研究会芸術監督。

パリの音楽院を卒業してからは、ルクセンブルクやケルンのオーケストラで働いて、その後、ベルリン放送交響楽団に移りました。当時、ベルリンは私たちの憧れ。音楽の聖都で、ヴィルヘルム・フルトヴェングラーやブルノ・ワルターといった有名な音楽家はみんなベルリンで活躍していました。だから最初にオーディションの誘いをいただいたときは、まあどうせダメだろうけど、ベルリンに行けるし、しかも旅費も全部出してくれるというので、じゃあ行ってみよう(笑)。だから少し気持

緊張する・しないは周期的なもので、そのうちまたしなくなると思うんですけど。豊田さんは若いころにヨーロッパに渡られています。当時は海外に出られる日本人は少なかったのでしょうか。豊田 ええ。最初はフランス政府の給費生として留学しました。海外に行くなんてほとんど考えられないような時代だし、音楽をやる人もほとんどいなかった。だから自分は選ばれた分、なんとしてもやらざるを得ない、運命づけられているという気持ちがあるんですけど強かったですね。

音楽への意識を高める 教育を大事に(豊田)

あるプロ野球の試合前に、3万人の観衆の前で『君が代』を弾いたことがあって、そのとき初めて脚が震えました。あのとき、もし体を動かして弾いていたら、少しは緊張が紛れていたかもしれませんけど、やっぱりそこは音楽に集中したかったので、自分をこまかずに弾きました。ただ、それ以来緊張するようになってしまう。僕の場合、

ちの余裕があったんでしょね。運良く受かって、もう50年近くになります。

現在は、音楽教育に尽力されています。

豊田 教育は本当に大事だと思っています。技術から入ると音楽への愛情が育たない。だからスズキ・メソッドは、まずいい音楽を聴かせて、それで子どもたちの音楽への意欲を高める。すると伸びが早いです。そうした考えが受け入れられて、今はずいぶん世界にも広まりました。

ドイツから帰国して草津で音楽祭を創立し音楽監督を10年、群馬交響楽団の音楽監督を6年務めました。が、厳しすぎて「鬼」と言われてました(笑)。でも、音楽に対する意識をもっと高めなければいけないと思ったし、それによって楽団が活気づいて演奏レベルが高まったのも確かだと思います。

最後にこれからの抱負をお聞かせください。

長原 僕は日本という国が好きだし、日本の音楽は世界に負けていないと思っています。ただ、それにはやはり世界を知っておく必要もあります。最近海外で仕事をすることも考えています。もちろん、その場合も将来は必ず日本に帰ってくるつもりです。日本人としての誇りを持って、世界を相手に活躍できたらいいですね。

豊田 私自身、勉強不足でなかなかできなかったことを勉強していきたいですね。そして若い人たちに学んだことを伝えていきたい。今教えている現場では、根本から教え直さないとけないことも多くて、「ここは病院みたいだなあ」なんて言ってます。私はやっぱり厳しいと言われますけど、音楽の道がそもそも厳しいんだから、それは当たり前なんですよ。

経 営

釜石製鉄所電力工場 営業運転を再開

釜石製鉄所電力工場（東北電力株）への電力卸供給、契約電力13・6万キロワット）が、7月1日に営業運転（契約電力のフル送電）を再開した。

同工場は3月11日に発生した東日本大震災により緊急停止し、石炭燃料を受け入れる専用岸壁、揚陸設備が損傷した。その後、今夏の電力需給逼迫の緩和に貢献するため、早期の再稼働を目指し、設備の健全性を確認するとともに、公共埠頭の活用などによる石炭燃料の物流体制の構築を進め、6月下旬から試験運転を行った。

同工場は岩手県で最大の出力規模を持ち、県内の一般世帯の電力需要の約4割をまかなうことが可能。電力不足が懸念される状況下、電力工場



釜石製鉄所 電力工場

の安定運営を通じ、電力の安定供給に努めていく。

総務部広報センター
▲03-6867-2135
2135-2146 2147

技 術

世界初の 直接鑄造チタンスラブ 量産工業化技術の開発に成功

新日鉄と東邦チタニウム（株）は共同で、チタン薄板用直接鑄造チタンスラブ（DCスラブTM）の量産工業化技術の開発に世界で初めて成功し、このたび東邦チタニウムがDCスラブの量産を開始した。一般工業用途向けの主要製品であるチタン薄板は、大断面のインゴットをブレードダウン工程（分塊圧延または鍛造）で薄いチタンスラブとし、次工程の大型連続熱間圧延ラインで圧延、製造している。今回開発に成功したDCスラブは、電子ビーム溶解法を用いてスラブを直接製造することによって、インゴットのブレードダウン工程を省略し、工期短縮や省資源、省エネルギーを図ることができる。

総務部広報センター
▲03-6867-2146



DCスラブ、チタンインゴット

環 境

君津製鉄所 宮脇昭先生の指導で植樹

君津製鉄所では7月4日、横浜国立大学名誉教授の宮脇昭氏の指導の下で、新入社員による植樹を行った。

今回の植樹は、2011年度より開始した新入社員教育「新日鉄学園」の一環で、新入社員ら231人が参加。日本やア



研 修

商社女性研修会を 初開催

新日鉄の鋼材を取り扱う商社10社の集まりである「十日会」は6月29日、初の女性研修会を君津製鉄所で開催した。商社と新日鉄より、鋼材の受発注業務などに携わる女性社員約40人が参加。生産工程や出荷作業を見学し、生産管理についての講義を受けた後、懇親会を行い交流を深めた。



君津製鉄所での講義の様子

営業総括部
▲03-6867-5033

総務部広報センター
▲03-6867-2135



植樹指導する宮脇先生(右)

紀尾井ホール 新日鉄文化財団 公演ご案内

＜クアルテットの饗宴＞ ジュリアード弦楽四重奏団

11月2日(水)/19:00

ハイドン：

弦楽四重奏曲第57番ト長調Op.54-1、
Hob.Ⅲ-58「第1トスト四重奏曲第1番」

マルティノ：

弦楽四重奏曲第5番(2004)

ベートーヴェン：

弦楽四重奏曲第13番
変ロ長調Op.130/133「大フーガ付」



ジュリアード弦楽四重奏団 © Steve J. Sherman

米国の名門クアルテットの2005年紀尾井ホール開館10周年記念特別公演以来の登場です。メンバーは世代交代を幾度か繰り返していますが、艶やかで緻密な「ジュリアード・サウンド」の伝統は連綿と引き継がれ、常に高い評価と人気を誇っています。今回2009年紀尾井ホールで素晴らしい演奏を披露したジョセフ・リンが第1ヴァイオリニストに就任してからの初来日。名門の新時代到来に今また注目が集まっています。

スケジュール

9月29日(木)、30日(金)/18:00

紀尾井素踊りの會 特別公演 五代目 中村富十郎を偲んで

仕舞「花月」、清元「北州」、清元・筆曲「花月」
中村慶之資、尾上松緑(立方)、片山幽雪(監修)、
藤間勘十郎(振付)、片山九郎右衛門(ほか(地謡))、
清元延寿太夫(ほか(浄瑠璃))、清元梅吉(ほか(三味線))、
福原徹彦(笛)、川瀬露秋(箏・胡弓)、
堅田喜三久連中(囃子)

10月7日(金)/19:00、8日(土)/14:00

ペーター・レーゼ

シュテファン・ザンデルリング & 紀尾井シンフォニエッタ東京 ベートーヴェン：ピアノ協奏曲 全曲ツィクルスⅡ

ピアノ協奏曲第1番ハ長調Op.15
ピアノ協奏曲第5番変ホ長調Op.73「皇帝」
ペーター・レーゼ(ピアノ)、
シュテファン・ザンデルリング(指揮)、
紀尾井シンフォニエッタ東京(管弦楽)

お問い合わせ・チケットのお申し込み先
紀尾井ホールチケットセンター(日・祝休)

TEL 03-3237-0061

<http://www.kioi-hall.or.jp>

グループ

新日鉄ソリューションズ(株) 電力ピーク低減ソリューションを提供開始

新日鉄ソリューションズ(株)はオムロン(株)、日本オラクル(株)と共に、7月6日、懸念される電力不足状況において健全な会社経営を継続するため、生産工場を含む事業拠点の電力消費ピークの低減対策を支援し、生産活動の継

続と電力消費の省エネ化に役立つ仕組み「電力ピーク低減ソリューション」の提供を開始した。製造業の経営者、工場長や生産管理、設備管理、電力管理の責任者と担当者は、全社および各拠点の電力消費量の把握と電力ピークの分析

新日鉄ソリューションズ(株)
総務部広報・IR室
▲03-5117-6012

を行い、生産情報との対比によりピーク時の対処計画の策定が可能になる。

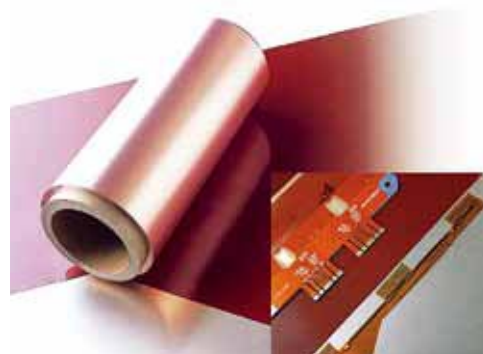
グループ

新日鉄化学(株) ポリイミド銅張積層板事業を一部譲り受け

新日鉄化学(株)は7月6日、三井化学(株)との間でポリイミド銅張積層板「ネオフレックス」事業の一部を譲り受けることで合意した。携帯電話やスマートフォンなどに使用されるフレキシブル回路基板用ポリイミド銅張積層板の製造・販売において、新日鉄化学がキャスト法で製造する

「エスパネックス」は世界市場に浸透している。今回三井化学のラミネート法も加えることで、回路実装材料事業の競争力強化を図る。譲り受けは2011年8月1日。

新日鉄化学(株) 総務部(広報)
▲03-5207-7600



エスパネックス®

グループ

新日鉄エンジニアリング(株) 『CSR報告書』を初発刊

新日鉄エンジニアリング(株)は7月1日、『CSR報告書』を初発刊した。製作に当たって環境保護や震災復興支援として、両面印刷の蛇腹式を採用し、紙の使用量を当初想定約3分の1に低減。有害な廃液を出さない水無し印刷を採用し、印刷加工は東日本大震災の被災地である福島市の印刷会社に協力依頼。内容面ではマップ編とカレンダー編

新日鉄エンジニアリング(株)
総務部広報室
▲03-6665-2366



の2部構成で写真とイラストを多用し、レイアウトにも工夫を凝らして読み物としても楽しめる内容に仕上げている。

グループ

新日鉄住金ステンレス(株) 製造プロセスでレアメタル 回収設備の導入を決定

新日鉄住金ステンレス(株)は、ステンレス製造工程で生じる副生物からクロム、ニッケルなどのレアメタルを回収する設備を光製造所に導入することを決定した。経済産業省「レアア

ス等利用産業等設備導入事業」の補助を受け、レアメタル回収設備を新たに導入することで、副生物のほぼ全量をリサイクル使用し、年間で1千トン強のレアメタルリサイクル量拡大を可能にする。投資額は約50億円。完成時期は2012年9月。

新日鉄住金ステンレス(株)企画部
▲03-3276-4853・4516・4848

これからの船のために、
ぶ厚い信頼を造ります。



海上輸送をもっと安全に、効率的に、エコロジーに。新日鉄の進化した鋼材が、大型船舶を支えています。コンテナ船には、画期的な高強度と粘りを併せ持つ高機能厚鋼板。より大型で安全な船体とともに、鋼板の軽量化による燃費向上を実現します。原油タンカーには、高耐食性厚鋼板。従来の5倍以上の耐食性で、塗装レスでタンク底面に使用できる製品として、世界で初めて正式に承認されました。さらに、万一の衝突時にも自船は壊れにくく、相手船の損傷も少ない船首用の新鋼材を開発。新日鉄はますます、一歩先いく技術の世界中の船にお届けしていきます。

先進のその先へ、新日鉄

www.nsc.co.jp

文藝春秋 7・8月号掲載

CONTENTS

研究開発の現場から Series13 挑戦しています。夢のもののづくり……………	2
新日鉄ギャラリー 光鋼管工場……………	3
特別座談会 世界から信頼されるグローバルプレーヤーを目指して —— 宗岡社長と海外拠点駐在の新日鉄マンが語り合う —— ……	4
紀尾井ホールで会いましょう 第21回新日鉄音楽賞 贈呈式・受賞記念コンサート VOL.13 第20回記念公演 ヴィオラスペース 2011 VOL.14 ……	10
トークスクエア 第21回 新日鉄音楽賞受賞者インタビュー 自分の音をまっすぐにお客さんに届けたい <フレッシュアーティスト賞> ヴァイオリニスト 大阪フィルハーモニー交響楽団首席コンサートマスター 長原 幸太氏 教え方が厳しいのは当たり前。音楽の道は厳しいのだから <特別賞>ヴァイオリニスト 社団法人 才能教育研究会芸術監督 豊田 耕児氏……………	12
GROUP CLIP……………	14

表紙のことは『景色・外・内』2011年 鉄・カリン材

材木の端材の上に
小さな鉄片
置いている

多和 圭三 (たわ・けいぞう)

作者プロフィール／1952年愛媛県大三島生まれ。日本大学芸術学部美術学科卒業。81年に真木画廊で初個展を開催。以来、鉄を叩くことを通じて制作を続ける。全国の画廊や美術館で個展を開催するほか、米国、韓国、バングラデシュでも作品が紹介されている。94年には新日鉄本社にて開催された「第3回 STEEL ART展」に出品。95年タカシマヤ文化基金新鋭作家奨励賞受賞。2003年第33回中原二郎賞優秀賞受賞。07年文化庁買上優秀美術作品。09年より多摩美術大学教授、現在に至る。